

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 特定非営利活動法人あやべ福祉フロンティア

訪問調査日: 2012年6月25日(月)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款や法人ホームページに示され、公開されている。非営利組織としての位置付けが定款・事業計画・総会資料および決算報告書からも確認できる。組織ミッションを達成するための公益的な基幹事業として、移送サービス事業をはじめ、元気な高齢者の活動支援施設で指定管理者として運営している「清山荘」や引きこもりの若者の支援事業「若者サポートステーション」等、多岐にわたる展開が見受けられる。	15/24 達成率 63%
	[2]組織ミッションと事業の策定	綾部市域における法人の役割や位置づけ等、中・長期的な視点においてヴィジョンはあるが、計画書としては策定されていない。単年度事業計画は、運営委員会等、日常的なコミュニケーションを図りながら策定されている状況を聞き取ることができ、事務局において、いつでも閲覧可能な状態にある。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	意思決定は、定款や法人組織図からも確認でき、各事業部ごとに役割を明記する等、適切なガバナンス体系が確認できる。理事会および最高意思決定機関である総会もその資料から適宜・適切に開催されている状況が伺える。法人の経営環境は公認会計士のアドバイスを受け、監事による内部監査が行われている。	22/43 達成率 51%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	経営計画書は策定されていない。指定管理費が収入の大半を占めているが、寄附や自主事業収入の実績が一定程度見受けられる。税制環境については、公認会計士事務所のアドバイスを受け管理している。	
	[3]職員と労働環境	就業規則等、労働環境に関する規程を現在作成している。福利厚生等労働環境の整備について課題認識がある。非常勤職員やアルバイト等雇用形態別に職制を規程したものは策定されていない。法人として、人材育成には努めているが、理想とする人材イメージ等、特に明確には表現されていない。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	事務所機能・連絡体制は明確であり、月～金曜日(9:00～16:00)で連絡受け付けが可能になっている。	21/31 達成率 68%
	[2]会計全般	経理に関する管理規定は策定されていないが、慣例的なルールに沿って適切に処理が行われている。公認会計士事務所から、必要に応じてアドバイスを受ける体制がある。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	単年度事業計画にのっとり、積極的な事業の推進状況が見受けられる。施設内に意見箱の設置やアンケート調査を行う等、利用者の「声」を汲み取るシステムがある。週に1度のミーティングで事業の評価および課題の抽出作業に取り組んでいる。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	ボランティアの積極的な受入れ状況が見受けられる。綾部市社会福祉協議会やボランティアセンターとの協働実績を聞き取ることができる。	13/16 達成率 81%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	法人の情報は、ホームページや公益活動ポータルサイト「きょうえん」、「NPOヒロバ」等で公開されている。	12/18 達成率 67%
	[2]第三者による評価	継続的に指定管理者業務を担い、日本財団から車両の贈呈を受けている。綾部市・綾部私立病院・綾部市社会福祉協議会から表彰実績が確認できる。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	重要書類およびデジタルデータの保管等は適切に管理されているが、管理規定の策定および規定に基づいた管理が今後の課題として見受けられる。移送サービス事業においては、アルコール検査を実施する等、適切なリスク対応がなされている。	11/18 達成率 61%
	[2]組織の社会的責任の追求	現状にとらわれず綾部市域全体の福祉の向上に向けて、日々精力的な活動状況が見受けられる。綾部市から「クールスポット」に指定されている他、ゴーヤカーテン等の取組みがある。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】 当法人は、1999年(平成11年)に設立し、高齢者並びに障害のある人の福祉輸送を始めました。現在では、年間4万人にもおよぶ高齢者並びに障害のある人のさまざまな「生活保障」「健康長寿の高齢者づくり」「社会的弱者への支援」の活動全てを利用者目線で行い、福祉移送事業では、全国屈指と言われるまでに発展してまいりました。 病人をつくらない、病気にならない、高齢者が勝手に老弱化する策はないものかと考え始め、綾部市内にある既存の福祉施設への協力、新たな福祉事業の創設などの活動をする中で、綾部市老人福祉センター(現綾部市清山荘)に注目し、こうした施設で元気なお年寄りを作ってゆくことこそが、健全な長寿社会への足がかりになると考え、綾部市老人福祉センター「清山荘」(以下、清山荘)の指定管理者に名乗りを上げ、平成18年4月綾部市から指定を受けました。平成22年3月末までの4年間、様々な改革を試み、理事者スタッフ一致結束してのたゆまぬ努力を続けた結果、行政直営最後の平成17年度に比較して、入館者の数だけみても、実に6,105人増という成果を上げ得るに至りました。綾部市からは、この実績を評価していただき、平成22年4月に再び同施設の管理運営を任せられることになりました。 多忙を極める毎日の中、少人数で様々な活動をしているのでストレスもたまりがちですが、職員全員が利用者に向き合っており、お互い補い合いながらよい雰囲気です活動しています。 今後も、新たな高齢者福祉を模索しながら活動し、農村を一手に担う高齢者との関わり、過疎化する市街地の高齢者との関わりをいかに持つかを大切に、様々な取組みを展開していきたいと考えています。 本法人は、綾部市域において、社会的に課題をかかえる若者から高齢者まで幅広く、地域の実情に応じた地域密着型の支援事業を着実に展開されています。厳しい財政事情や過疎・高齢化の中においても、地域の利用者にとって明るく笑顔の絶えない施設運営(指定管理)を目指されている状況が伺え高く評価できます。書類整備等組織的運営全般としては課題が見受けられますが、自らの気づきと前向きな改善の姿勢において今後ますますの期待が寄せられますので、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。			94/150 総合達成 率63%